

10月31日PM1:00

53番教室

「教育を労働者階級の手に奪還せよ！」

「産学協同路線粉碎」のスローガンを掲げた66年早大闘争を発端に60年代教育学園闘争は大爆発をした。しかし、教育の矛盾の突出は、改革路線＝合理化をもって収約、隷属が強化されんとしている。資本制工場制度の下で、教育は労働力商品の生産、再生産過程であり、学生存在は自由な自己活動の外観の下での資本の下への隷属に外ならない。

戦後第2の革命期とは、あらゆる戦線においてプロレタリアートが自らの全存在をかけて闘い抜く一あの三里塚闘争のごとく一ことである。プロレタリアート独裁を「党」の独裁へと落し込めるスターリニストどもと決別し、労働者階級の生き生きとした肉体と精神を克ち取る、そうした教育を我らの手に奪還せよ！

☆☆☆☆☆シンポジウム☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

教育サービスを受ける学生、その提供者＝教師、教育は社会的行為であり、すべての人達はその当事者である。教育労働者、夜間大学生、定時制高校生、教育関係出版労働者。60年代教育学園闘争と云われるものが多くは学生の闘いであり、そういうものとして敗北を喫していった。しかし、より階級的な闘いの進化として労働者と学生の生きた連帯と、共に闘い抜く地区的連帯闘争を今こそ構築せねばならず、その事が現実の資本制の廃棄＝共産主義の闘いである。我々Ⅱ部学生の昼間の労働過程を、ブルジョアジーのごとく「勤労青年」と美化するのではなく、又日共のごとく改良闘争へと自らを物理力とする事を拒否し、自らの制約を突破し、根源的解決を克ち取ることが、今問われている。

千代田日中

11号館50番教室

きみたち青年は、午前八時、九時の太陽のように、
生気はつらつとしており、まさに、旺盛な時期にある。
希望はきみたちにかけている。（毛主席語録より）



←きり紙・バレエ・赤軍女性中隊

	映 画	講 演
1 日 PM 5:00～	「殲滅戦」	塚越正男 「中国侵略と今日の 日本軍国主義」
2 日 "	「赤軍女性中隊」	齊了会第七次訪中団員 帰国報告
3 日 PM 1:00～	「紅旗用水路」 「南京長江大橋」	蠟山芳郎 「ニクソン訪中と 中国の外交政策」

展 示 中国共産党五十周年記念写真展

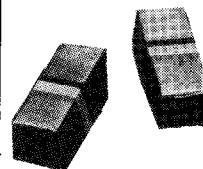
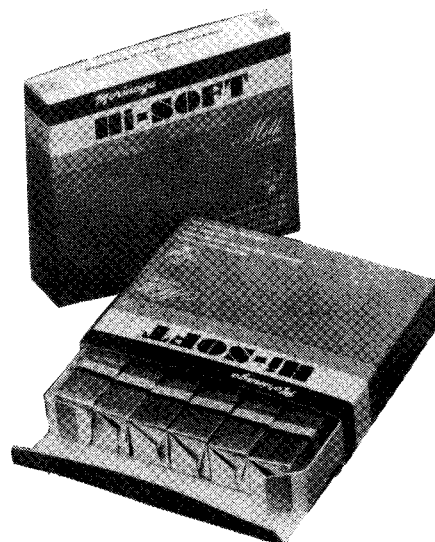
女性解放運動準備会

中絶と女の解放

“母性保護と性道德のたて直し”のために中絶を禁止せよ、という声が聞かれる。はたしてそうだろうか。中絶をした女達の唯一人として自分が実際、麻酔をかけられ眠っていた間、その開かれた股の間で、そしてその内部で何が起っていさか知るまい。それなのに中絶ということが、あまりにも危険視され、又逆にあまりにも軽視されている。今こそ我々は「中絶の実態」を知る必要があるのではないか。

更に性道德の確立をもって結婚外のSEXは悪になり、夫という名の人間と妻という名の人間のSEXだけが、子供という名の清浄剤にきよめられながら、陽の目をみることになる。そして、性道德からこぼれた性の営みは悪として暗黒の部分に生きつづけていく。我々はもう一度とらえかえしてみよう。国家権力の言う母体保護や性道德の確立は、真の女性解放につながるのだろうか。この視点をもって、街頭インタビュー、避妊法や中絶の資料を含め、フリートキングの形で集会を持ちたいと思う。当日は未婚の母、闘う女の参加を予定している。

〈間〉と〈間〉をソフトにつなぎます



甘～いミルクの香りが
あなたを一杯にします…

森永ハイソフト
高級キャラメル

／ 50円



森永製菓

祝 駿台祭 渡辺工業 株式会社

中野区本町 5-9-10
TEL 384-1722
383-3044

平和観光開発 株式会社

TEL 573-3756 (代)
取締役社長 菅浦 一
(S16 政経)

Coffee & Music 年中無休

お茶の水明大前
1・2F 純喫茶

B1 団体席, 予約受付中

3F ビリヤード有り

セカイ

TEL
(293)
7621
(293)
7626

シンポジウム 「革命のメディアからメディアの革命へ」

出席者（予定）

- ・津村喬（評論家）
- ・蔵田計成（ルポ・ライター）
- ・「進撃」編集部（東大全共闘）
- ・「ストラグル」編集部（京大全共闘）

日時 11月2日（火）午後6時

「祭り」が〈解放〉そのものであるならば、この醜悪な、冷やかなアウシュビッツ空間でおこなわれようとする「祭り」とは一体ナニモノなのか。

バリケード、カルチュラタン闘争が〈われわれ〉にとって〈祭り〉そのものでありえた。では現在のな〈われわれ〉の〈祭り〉なるものは……。それは〇〇祭実行委員会の設定された、規定された擬制の白茶けた「祭り」などではなくして、無限空間へ向けたエネルギーの噴出であり、抑圧された情念の狂炎でなければならない。

とはいいつつも「シンポジウム」などと真面目臭ったことを……。

一年有余に渡って闘われてきた「明治大学新聞学会闘争」は編集部の内在的「御用新聞解体」を契機とし、新聞学会権力（＝大学権力）の2・10編集部解散処分を媒介に、「2・10処分白紙撤回」―「2・10処分粉碎」―「評議員会・理事会解体」へと深化される中で、学内の諸戦線・諸サークル・諸個人が圧倒的に結集する中で果敢に執拗に闘われてきた。

度重なる団交から、理事の逃亡、引き延し策動、闘いはエスカレートし、理事の授業に対する全面的授業実力介入団交。1ヵ月に渡る授業介入団交を経て、7月10日、対評議員会団交を実現（とはいっても4人、しかしながら重要人物）。この重要局面において「2・10処分白紙撤回」ならぬ、評議員会、理事会の「処分」の圧倒的な勝利を勝ち取った。いま全面的勝利をおさめんとしている。

しかしながら「2・10処分白紙撤回」にとどまらぬ「評議員会・理事会解体」も〈われわれ〉の闘いのほんの序章にすぎない。

「明大新聞学会解体」の闘いに終焉はない。「新聞学会闘争」なるものは単なる要求獲得闘争ではありえず、まさに〈われわれ〉の意識・存在そして関係性の〈解体〉であったのだから……。

〈われわれ〉はその闘いをさらに深化させることとして、これまで〈書き手〉〈読み手〉として定立していた関係性の変革を主要な軸とし、それを保障するものとして拡大マップ共闘を位置づけた。

今回のシンポジウムはそのことと同時に、東大全共闘機関紙「進撃」編集部の「革命のメディアからメディアの革命へ」の論に視点をあてつつ、われわれがこの間の闘いの中で「自立メディア」、「闘うメディア」といつてきたことを深化していきたい。

祝 駿台祭

大和運輸株式会社百貨店部
TEL(541)3411 代表

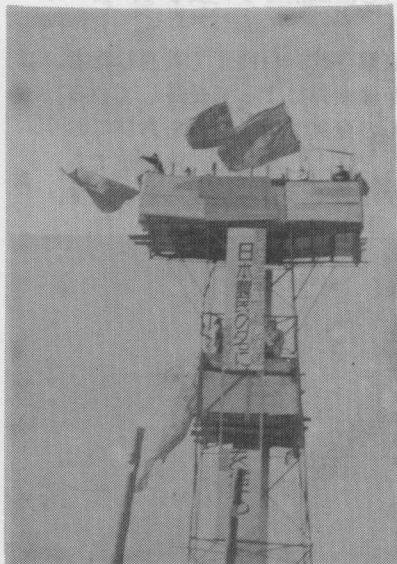
冬季アルバイトは大和でどうぞ!!

アルバイト相談所TEL(542)0952
1452

勤務場所 あなたの住いの近くです。

駿台祭に対する我々の基本的立場

現代社会におけるブルジョアジーのあらゆるもの—政治権力・経済機構・文化・芸術・教育等々—を彼らの手からプロレタリア人民の手に取り戻す中から、プロレタリア階級独裁にむけ我々は政治領域のみならず、文化・芸術・教育等々をも含んだ革命を起こしてゆかなければならない。政治・経済・文化・社会等々各領域（現代社会において、明確な区別はつけにくい）で我々は、プロレタリア人民の側に立ち伴に社会主義社会—共産主義社会を目指し闘いを展開してゆくことを、すべてのプロレタリア人民の前にあきらかにしておきたい。かかる観点に立ち、我々明治大学R戦線は、現在まで存続されてきた学園ナショナリズムの上に立ち、表面ではその進歩性・革命性をうたいながらも、内実は、きわめてブルジョアの論理で貫徹されてきた駿台祭を、まさに我々の赤い炎で焼き尽くすその中から今秋沖繩返還協定批准国会粉砕／42年4月、自衛隊—日帝のアジア侵略・反革命軍の軍隊—沖繩派兵実力阻止／の戦線を構築すると共に、プロレタリア階級独裁に向けたプロレタリア人民の文化・芸術運動を構築するひとつの契機としようではないか！我々明治大学R戦線は、その実践として、明治大学三里塚闘争連絡会議と共に、まさに階級闘争の赤い星として六年有余にわたり文字通り労働学共闘として闘われ、プロレタリア階級独裁のその日まで闘われてゆくであろう三里塚新東京国際空港粉砕闘争の記録映画（単なる記録映画では断じてない）上映と、現地の革命的な農民・学生が発言等々を予定しています。（文責 宮下）



11月2日PM6:00～

53番教室

13年

ひたむきに歩んできました。

◆創立 昭和34年1月27日

◆歴代理事長 大木直太郎 松尾憲橘 田中斉 永田正 大木芳朗 松尾弘 市毛景吉(現)

◆組合員数 30,000名

◆年間利用高 900,000,000円

◆職種 書籍 文房具 日用必需品 洋服 食品 食堂 プレイガイド 出版 特別事業

従業員数 100名

明治大学消費生活協同組合

■本校店 東京都千代田区神田駿河台1の1
 ■和泉店 東京都杉並区永福1-9-1
 ■生田店 神奈川県川崎市生田4184

TEL (293) 2201
 TEL (323) 1591
 TEL (91) 2054

告 発

明大弾圧対策委員会

「催涙ガスは人道的な武器である」という軍事科学の体系に包含される位置づけをもって、権力の催涙ガスを使った弾圧はますますエスカレートしている。6・17あの雪のように降りかかる白い粉の中にいた諸君は、これがまったく殺すことさえいとわぬ、権力の狂気じみた拷問の発想であることは、確認できるだろう。催涙弾は今や頭部・顎部をねらい撃ちし、眼前でサク裂して、白い毒粉をあびせかけるといった恐るべき凶器となっている。

当日にも数百発の毒ガス弾が放水とともに撃ち込まれ、ほほを直撃され、口内まで貫通した者、毒ガスによるひどいやけど、中毒症状をおこしている者など多数が催涙弾によって受傷している。各所の隊列に向けての直撃、至近距離での爆発でデモ参加者ほとんど全員が大量の粉をあびており、即日、あるいは1週間、2週間たってから、顔、首、肩、胸、足などに、しっしん、水疱ができ、その後さらに全身に症状が拡がり、リンパ腺がはれあがり、全身がだるく、37～39度の熱が出て、



痛み、かゆみで不眠、食欲不振におちいっている。検査によれば検診者全員に尿と白血球の異常が認められたという。当然のことながら逮捕者の多数が毒ガスにひどくやられている。特に6月17日逮捕の上野 128号は上半身から左足ももにかけて、水疱、全身赤くただれ、熱も39度のまま、睡眠、食事もとれず、治療を要求すると刑事に五ヵ所の病院をつれ回された。結局、あまりのひどさに警察は完黙の彼女を釈放した。最近急激に濃度が強められ、催涙ガスの使用基準は拡大される一方である。（法務省訓令では、人体に向っての直撃禁止、警告の義務を明記している。）催涙ガスは、戦争でも使用を疑問視されている致死性の有毒ガスであり体内蓄積、遺伝性も調査されている殺人兵器である。ベトナムにおいては、1965年1月—1966年7月のあいだに 300人もの死亡者が出、増加している。また、アレルギー作用を起すことも幾多の例で立証されている。このようなおそろべき催涙ガス使用に対して治療、警戒を強めよう。

皆殺しの論理に立った権力の非人道的殺人行為を許してはならない。

シンポジウム

10月31日PM. 2:00

11号館41番教室

やむることなき歯車のように刻々と変動をし続ける人間社会、その発展は自然を根こそぎ崩壊しつつあるだけでなく、私達の身体、精神をもその歯車の中にくい込ませ、流れの中に身を委ねるのを余像なくさせてしまう。そうした毎日の中で今、私達に必要なのは「主体性のある生き方」をするということである。これを取り戻す行動の一つとして我々は人間の原始以来の特権である二本の足で「歩く」ということ、そしてそれによって「自然に帰る」ということを提唱したい。自分自身の体、足を使つて見つめる自然。例えば、まさに秋も深まりゆく今日この頃、自然は無くなりつつあるとは言え、美しく紅葉した山野の中で我々はあらためて、自然の息吹きを感じ、「生」を感じることであろう。

我々のクラブは歩くことによって自然と親しみ融合する意志のもとに創立され、今年で十周年を向えようとしている。駿台祭においてはその十年間のクラブの歩みを紹介するとともに、将来の自然を求める姿、形態を思考し、現在のウォーキング活動をアピールするべく、サークルを越え一般の参加者を募集し、その前夜祭ウォークと富士山麓西湖畔への一般公開ウォークとを計画している以上の企画についての詳細はパンフレット、ポスター等に発表してありますので、ご覧下さい。

薔薇の詩

序

青米における土地武装解放闘争——武装農民戦争は、極少数士による依然としたゲリラ戦として遂行されているのみである

教育研究部

11号館12番教室

『71年・教育の現状』

どの子もみんな、伸びる芽をもって生まれてきたはずだ。それを、おとなたちはよってたかつて駄目にしてしまう。ああするんだヨ、こうしてはいけませんヨ、としつけられ、テストの成績が悪いといつては叱られ、こどもたちはしだいにやる気をなくしてしまふ。あげくの果ては「根性がないッ！」である。才能開発どころか、才能殺しのデクノボー作りの「教育」が、はびこっている。

あなたも、いたずらをやったハズだ。やりたかったハズだ。それなのに、子どもがいたずらをはじめると、なぜとめてしまうのか？よく考えてほしい。いたずらこそが天才をつくったのだ。いたずらは大脳づくりのビタミン剤だからだ。社会の進歩、民族の発展、いつもそこにはいたずらっ子がいた。いたずらっ子を征伐する今日の「教育」を、ほうっておいてよいのだろうか。おそろいの服を着せ、おそろいの教科書をあてがって、おそろいの授業をする——それが教育というなら、なにをかいわんやである。

一つの作品となつて世の中に発表される芸術作品は、方法を相隣りあつた芸術のうち助けをもとめることをせず、むしろそれらから反発するかのように、自己に固有な方法を見出すのである。すなわち、彫刻は一瞬の姿勢を保つことによつて、絵画は色彩によつて、それぞれ作者の感情なり思想なりをあらわすものなのだ。この考えによれば、文学とは人為の文字として言語を用いる芸術としての文学を根底において制約する言語とはいつたようなものであるか、私くはそれをルソーの考えによりつつ簡単に素描してみたい。

ルソーは言語を、ものごとの記号や身振り手振りによるものと、言葉によるものに分ける。そして記号や身振り手振りは文字言語として、言葉は音声言語として、文明の発展とともに分化が進み、やがて文字言語が優位にたち、言語は思考の伝達を正確にしてゆくが、力強さや情念の伝達の面においてうすれてゆくのである。言語はもととも音声言語である。なぜなら、あるものごとを伝える際には、記号身振り手振りの方が言葉よりよいが、情念を伝えるには言葉の方が適している。言葉は情念から起るものだからであり、人は推論するよりも先に感じるから、ゆえにもともと言語は音声言語なのである。ところが先述したように文明の発展とともに、感情よりも観念を重視するようになり、言語も心情よりも理性に向つて語りかけることとなる。十七世紀以降の理性を重んじ思想・生活のすべてにこれを貫こうとする態度、近代合理主義の風潮によつて音声言語は有効性をますますなくしてゆき、現代において言語はコミュニケーションに欠け一方交通の人間の支配の道具となつてしまふ。私は言語に対して、理性による推論の言語、支配の言語よりも、感性・情念の言語の回復を求めなければならない。今日、近代合理主義の破算により、人間諸科学の再検討が問われているとき、言語もそのあり方を問われるのは当然のことである。高度の技術化による産業社会では、言語は単に分析的、機能的になり、正確さ厳密さを増している。それは進歩であるが、一方通行の支配の言語そのものである。私は本来の言語を求めなければならない。

もつと言葉を!!

- ☐ 英会話喫茶 OBや他大学E, S, Sとの親睦を計るとともに、実力のレベルアップが目的。
一応店内では英語で喋ってもらい、あまり種類を多くしないでコーヒー、紅茶等を出す。
- ☐ 英会話喫茶 OBや他大学E, S, Sとの親睦を計るとともに、実力のレベルアップが目的。
一応店内では英語で喋ってもらい、あまり種類を多くしないでコーヒー、紅茶等を出す。
- ☐ スピーチ・コンテスト 名自原稿を作り予選を通過した者のみをスピーカーとして参加させる。
喫茶同様に他大学E, S, Sにも聞いていただく。
時間として丸1日かかる予定。

11月3日 A.M10:00～ 31番教室

音楽研究部

音研とは何か？

それは、ジ

ヤーン！明治大学音楽研究部という名称を省略したものである。と、まあその辺の事情によって、本年も駿台祭が滞りなく行われるにあたりまして我々音研部員一同、一生懸命頑張っただけであらうでないの、という事に決定した次第であります。御来場の皆さんも、一緒になって歌って踊って、飲まないで楽しまなければいけない事になっております。

お暇でない方もぜひぜひにお誘い合わせの上御来場しちゃいませ。エードエード (Very Good の意) の世界が今宵もおぬす、いやあなたをお待ちしております。TELしてね。・・・天点転

ホンでもってホレから名バンドの紹介などをいたしますと、モダンハワイアン、パール・アイランドス、モダンジャズのセイント・ドン・ボスコ、モダンカントリーのアローズ、モダンフォークの各バンドが倒錯と悦楽の驚異的衝撃の世界へとトリップさせてくれるでしょう。

会場は11号館会議室。進行といたしましてはAM11~PM5迄演奏会形式で行い、それ以後夜の部はダンスパーティーを行います。顔に自信のある方もない方も奮って御参加下さい。



全ての Beatles Generation は
リウ・ア・フルに結集せよ！

Abbey Road
The Things We Said Today Hello, Goodbye Bee
Don't Let Me Down Let It Be When I Get Home
Lady Madonna Sergeant Pepper's Lonely
PS I Love A Day In The Life Hello, Hart's Club
And I Love Her Day Tripper Goodbye Band
Rubber soul Yellow Submarine Revolver
Strawberry Fields Forever

★ PS.
リウ・ア・フルは11号館にあります

★全時間LPえんそう
(ふらふら海川マキと
かけるかきんないさ)
★店内にてポスターはんばい
etc... etc...

喫茶 **リウ・ア・フル**

映画研究部

恋をしました。だけど赤ん坊産むには遅すぎたのです。僕は恋も出来ないのです。此の矛盾に満ちた文章が僕らの今のすべてなのです。でも時々ふっと思い出す事があります。赤い夕陽を背に受けて、ふらりたたずむ港街、白い鷗が輪をかいて、ワ、ワ、ワの大和観光大波小波ゆれゆられ、その時地獄を垣間見て血しぶくドスをふところに、泣いてくれるなお母さん、義理と人情の罅の中で、日陰に散った花一輪、再び帰ることのなき、浮世の切なき、やるせなき、流刑人の運命を僕は甘受せねばならない。そうしなければ僕は生きる事が出来ないからだ。こんな不幸な事がまたあるでしょうか？三里塚のお母さんもとつとあてのない旅に出るのです。僕は何処に行けばいいんだろう。棄てるものがあるうちはいい、それが無い人間は何を棄てればいいんだ。懸命に叫んでも誰も答えては呉れない。さがせばいいんだけど、さかすにはやはり遅すぎたのです。

十一月一日 P.M 六・〇〇
十一号館五三番教室

日本史研究部

11号館3番教室

明日と云う日のために

よく過去と未来の接点が現在だと云われる。そしてその現在に果喰うのが人間であると。私たちの日研も歴史研究部と云う大義名文だけではないが、過去を対象とすることが多い。現在の人間がどうして過去をと一考する人もあるかもしれない。しかし今の時点においても過去になる。こうして過去と未来は一体化しているし、全ての点で不一致は許されない。だからこそ私たちは、過去を重視し、生きた現在を過したいのである。こうした活動は以前の日研には、アカデミックな研究とか、一方的な政治闘争の場でしか見られなかった。今私たちは、「模索するサークル」を目ざしている。もちろん、その対象は政治、経済、SEX、歴史etcの生活の全てである。こうしてサークルを解放し、保主的な今までのサークル活動を粉砕し、主体性をもつ、全ての者の広場として、より進歩的なサークル形成のために、人生のジャンプ台としてのサークルへ一変したい。

目的にぶつかり、自らの手で解決するのが、今一番近い手段なのだろう。

up! up! and away!

歴史科学研究部

地獄の数は数知れず

解放ってやつはまだ来ない

時はすぎる

そのうち天国だって来るだろう

おれたちぬきの天国が

ブレヒト

「赤軍兵士のうた」

それでもいいんだ！

政治研究部

『祭』は祭でしかない。……

その中に意義を見い出そうとかあるいはそのものをなんらかの意識の形体としようとかする事はまったくつまらないことである。

真夏の夜のやぐらを囲んでの祭も三里塚における祭も結局は『祭』でしかない。そして駿台祭も同様である。

どう主体的に意義づけてみても、駿台祭における『祭』は、もっとも発達した近代資本主義社会の極めて合理的管理支配体制の貫徹された『大学』の内における、スケジュールとしての『祭』であり、大学という幻想共同体においての個々人の疎外感を欺瞞的に発散解消し、抑圧された人民の絶望的な『いこい』の場でしかない。

我々はそのようなことをふまえながら、いまだ解放されない人民社会において権力に対しもっとも革命的なそして尖鋭的な闘いが展開されているところの三里塚をこの神田地区駿河台に運び込む。

過去6年間にわたり闘われそして今後とも永続的に闘われるだろうところの三里塚を、いまだ二極分解されえない極めて混沌とした政治・社会的状況においてその突破口となるだろうところの三里塚を、そしてその焰は北富士へ沖縄へそして革命的な全人民へ燃え上がるだろうところの三里塚をこの鉄柵の中へ我々は運び込む。

この駿台祭という時間と空間を利用してアラブゲリラの闘いとベトナム人民の闘いと中南米諸国の人民の闘いと全世界の抑圧された人民と連帯しうる三里塚の農民とともに自ら階級性目ざめ革命そのものが存在そのものである事を志向する我々がR戦線とともに明大三闘連に参加し『三里塚——その闘い』を開催するものである。

多くの諸君が11月2日5時30分より53番教室で開催される『三里塚——その闘い』に参加されんことを訴えます。

研究部連合会唯一の理工系サークルである電氣研究部は、その特異性を發揮して日常活動及び、研究発表を常に行なっています。主な研究対象は、電子工学一般ですが、特に高周波部門の電氣通信と、低周波部門の音声増幅に重きを置いています。これらは、アマチュア無線班、及びオーディオ班という二つのグループに分かれていて、研究活動の円滑さをはかっています。今年度のアマチュア無線班の活動は、トランジスタ回路の研究に主眼を置き、初歩的な低周波増幅器の実験的製作を数多く手掛け、そしてその製作を研究の母体として、無線機器のトランジスタ化に取り組んでいます。一方オーディオ班は、従来のステレオ再生装置の大改造に着手し、すでに電氣研究部の最新鋭プリアンプMDP七一九の完成を我が手におさめ、総出力一三〇Wの大出力ステレオ再生装置の完成に向け全力を投じております。今回の駿台祭には、このステレオ再生装置を使った大コンサートを企画しています。

研連空手道部

記念館

10月31日AM11:00

我が研連空手道部は、創立10年目を迎えます。ますます意気盛んである。昨年度は関東二部学生空手道選手権大会で、念願の初優勝を成し遂げ、本年度は大会も東日本二部学生空手道選手権大会と名称も変わり、規模も大きくなり一段と内容も充実してきた。この大会に於て是非とも優勝し、王座の地位を守ろうと全員一丸となって練習に励んでいます。昨年度は練習場が思うように使えず、屋上や戸外で練習したりして、条件的に大変不利でしたが、その不利を見事乗り越えての優勝であり、実に価値のあったものと思います。それに比べると本年度は今のところ練習場には時間的制約はありますが、ある程度自由に使え、その点においては昨年より有利です。しかし部員の数が少なく悩みの種です。学生諸君の中に空手をやりたい人、興味のある人は、自らの身心の向上に努め悔いのない青春を送る為にも、空手道部への参加を待っています。諸君らの力を發揮するのは今です。気軽な気持ちで部室の扉をたたいて下さい。

棚卸資産の評価について

継続企業を前提とした期間損益計算を行なっている今日の企業会計においては、資産評価の問題は、企業会計の根本的課題である。資産評価の中でも棚卸資産についての評価は、その評価が、企業の経営成績に大きな影響を及ぼすことから、極めて重要な意義をもっている。

又、企業の経営規模の拡大・多数化・複雑化に伴って、棚卸資産の評価についても、種々の方向が唱えられ、問題点も多い。

そこで我々は今回、この棚卸資産の評価について、企業会計原則を中心として、商法・税法等の企業会計の関係諸法令を含めた研究を行ない、問題点を指摘し、企業会計原則と関係諸法令との相異及びその理由となつていく会計思想を明らかにし、さらには今日の企業会計に課せられている社会的使命に照らしあわせて、それらが如何にあるべきかを追求してきた。その発表を行なう。

又、講演、討論も予定している。

<追補>

いうまでもないことであるが、警察の捜査力は高度で、不発の場合はもちろん、完全に爆発しても爆弾の容器を復元し、火薬が何であったかということ爆発残査から検出すること等は、容易なことである。従って容器に使うカン等はメーカーが判明せぬように、焼いて塗料を落とすとか、タイムスイッチや時計等は内部の製造番号等を忘れずに落しておく必要がある。又、捜索を予想して工場には一かけらの薬品や金属片も残さぬようによく掃除して

革命の原点に立つ

現代の様々の状況を我々が自己の問題として捉えたときに、自分としてはどう考え、どう対処して行くか。そのことをある高揚の最なかで、ひとつの広場で表わして行く闘いが46年度駿台祭における、我々東洋思想研究会の任務である。

あらゆる問題を提起することに止まらず、これまで試行し営まれてきた末に、どうしてもこの見解しか、人間総体の普遍性として掲げるしかないであろうというテーゼを、やむにやまれぬ、必然性の表現をここで示したいと考える。それは相対性の世界から一步脱皮したところに展がる、線の闘いから面の闘いに移って実践される運動体の表現でもある。

現代社会の諸々の分野に光を当てるとすれば、我々の現実の生活レベルに時代の将来的展望に、現社会の状況に、総体的な視点からのアプローチを成さねばならぬであろう。その取り組み方として、各セクションに分担化し、政治、経済、戦争論、公害、生き甲斐論、天災キケン、宗教と社会、という各コーナーに分け、それをトータルな形で解決として生み出して行くものが我々の東洋に求める根源Ⅱ理念なのである。